

# 中川正春の永田町かわら版

2005/1/28 第229号

民主党三重2区総支部連合会 衆議院議員中川正春事務所

※配信不要の方はお手数ですがご連絡ください。

三重／〒513-0013鈴鹿市国分町4 5 3-7 TEL: 0593-73-3933/FAX: 0593-74-3088

東京／〒100-8981永田町2-2-1 衆議院第一議員会館4 2 8 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

## ○小泉総理の答弁拒否に、戦う知恵を

国会が冒頭から荒れています。岡田代表の質問に対して、小泉総理が答弁拒否をしました。これまでの言いつ放しの質問ではなく、対話形式で二回目、三回目と再質問を重ねる追究を、岡田さんは試みました。もちろん、事前にそのことの通告をした上でのことだったのですが、小泉総理は「一回目の答弁で全て答えている。」と一方的に答弁を拒否しました。

本会議に続く予算委員会答弁を聞いていても、郵政の民営化以外は、それぞれの政策に対して小泉さんは自分の言葉で国民に語りかける気持がないのだと言う事が分かります。総理大臣が国会の審議拒否をするのは、民主主義の否定です。前代未聞の話になりました。

これに対して、他にうまいアピールの方法が考えつかないままに、私たちの本会議場退場と言う選択も誉められたものではありません。皆さんの批判の通りです。あのまま議長の指示どおりに審議を進めれば、小泉総理の対応はマスコミに取り上げられることのないままに流れてしまう。そこを、何とかしなければ、とあせった結果、国対委員長が退場の指示を出しました。ああした対応以外に知恵が出せなかったのは、悔しい思いです。

## ○人権法は日本の心を取り戻す突破口

また8人の北朝鮮からの脱北者が北京の日本人学校に逃げ込みました。「日本大使館に、これまで既に15人ほどの人たちをかくまっている。」と、前回訪中した時に担当の領事が言っていましたから、彼らの苦労は大変です。

私のところにも、韓国のNGOから「脱北者で、中国に潜伏している人たちを、日本の領事館などを通じて救い出して欲しい。」という依頼が入ってきます。皆、もと在日コリアンで「だまされて北朝鮮に渡った。何としても、日本に帰りたい。」と言う人たちです。

北朝鮮の人権法案は、脱北者の救済を第一の目的にしています。中国政府に、脱北者を北朝鮮に送り返すなどと言う交渉をすると

「日本だって難民には冷たいし、国内の難民法でも脱北者を救済する事にはなっていないではないか。」と反論されます。最近では、アメリカに日本国内での外国人の人身売買の実態を指摘されたり、さらに、クルド人難民をトルコに強制送還してしまうような事件もありました。

今、私が準備している人権法によって、こうした日本の人権に対する考え方を転換していく突破口にしていこうという思いがあります。憲法で、基本的人権を高らかに謳いながら、日本の社会には、外国人だけでなく日本人同士でさえも、自分達の仲間以外の人々に対して、以前にもまして無関心で、なるべくかわりたくないと言う風潮が大きくなってきているのが心配です。

できることなら、まず国内の難民問題に対する体制を整えて、その上で中国に対して「あなた方は、間違っている。」と、しっかりと主張をしたいのです。

## ○子育ての元気、が一番の予算

政府予算の一番の問題は、所得税の増税です。年金の保険料アップや介護保険料のアップなどあわせていくと、サラリーマンは給与の手取りが下がっている最中に大変です。景気もしっかりとしたものでないだけに、私たちは「この時期、増税すれば日本の経済が後戻りする。」と判断して、反対をします。

民主党も予算の対案を出しました。増税よりもムダの廃止で4兆円を節約すること。そして、選挙のマニフェストで約束した中では、特に、少子化対策と地方分権の一括交付金改革が目玉になっています。

民主党の予算では、子育ての元気の源とするために、子供一人あたり月1万6000円を中学校3年卒業まで支給する子供手当を創設します。これに必用な3兆円の財源は、所得税の扶養控除、配偶者控除、配偶者特別控除を廃止することによる増収分をあてます。若くて働き盛り、しかし、所得は低い人々が、心配なく二人目、三人目の子供にチャレンジできる元気がこの制度で少しでも出てくればと言う思いです。「政権が取れればな。」です。